

モノづくり体感スタジアム2026

工作・実験 子どもたちの「一生の宝物」

5月16日、大阪の堂島リバーフォーラム（大阪市福島区）で「モノづくり体感スタジアム」が初めて開催される。デジタル化が進む今だからこそ、自分の手で何かを形にする手触りや、試行錯誤の末に機械が動く瞬間の感動は、子どもたちの心に一生残る「宝物」になるはずだ。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が贈るこの体験型イベントが、大阪という新天地において、日本の明るい未来を照らす新たな笑顔と夢の物語を紡ぎ出す。

日本の明日を支えるモノづくりの力。それを次世代につなぐために必要なのは、教科書の中にある知識だけではない。自分の手で何かを創り出すときのワクワクする気持ちそのものだ。モノづくり体感スタジアムは、まさにその心の種をまく場所として、多くの親子に愛されてきた。会場を包む熱気は、日本の未来を育む

モノづくり体験を通じて親子のかけがえない思い出を生む（昨年のモノづくり体感スタジアム）



モノづくり体感スタジアム

来月16日 大阪・堂島リバーフォーラム

確かなエネルギーとなつて

での初開催が決定した。モノづくりの伝統が息づく大阪の地で、子どもたちが「本物」の技術に触れる機会をつくることは、日本全体を明るくする素晴らしい一歩となるだろう。24日に締め切られた東京開催（8月8-9日）の出展募集にも、熱い思いを持った企業からの応募が寄せられた。

来場申し込みはこちらから

モノづくり体感スタジアム in 大阪への来場申し込みは二次元コードへ



隣で見守る保護者の優しいまなざしも欠かせない。プロの技術に親子で驚き、ともに手を動かす時間は、かけがえない

近年の歩みを振り返ると、社会情勢の変化に寄り添いながら、子どもたちにモノづくりの楽しさを届けるための挑戦が続いてきた。オンライン形式が中心だった時期を経て、対面開催が本格的に再開された2023年、そして25年の科学技術館（東京都千代田区）での開催では1000人超の来場者が集まった。五感を使って味わうモノづくりの楽しさが、いかに子どもたちの瞳を輝かせるか。それをあらためて証明した直近の数年間だったといえる。自分の手で作品を完成させたときの誇らしげな顔こそ、守るべき宝物だ。

大阪会場で待っているのは、一流企業のエンジニアたちが知恵を絞ったワークショップだ。ヤマシタワークスのブースでは、金属が一瞬で鏡のようにピカピカになる驚きの磨き技術を体験できる。日本機械学会のプログラムでは、親子で力を合わせて電動観覧車をつくり、動く仕組みを楽しく

学ぶ。川崎重工のブースでは、普段は触れることのできない本物の産業用ロボットを操作するエンジニア体験が待っている。さらに、日立製作所の日立工業専修学校による紹介コーナーもあり、学びの先のキャリアを具体的にイメージできる工夫も凝らされている。どれも、大人が見ても、目を見開いて声を上げてしまう本格的な内容ばかりだ。本物の技術に触れた驚きが、新しい夢への扉を開く。

大阪開催の予約受け付けは、すでに15日からスタート。開催まで残すところあとわずかになった今、予約画面を前にどのワークショップに行こうかと親子で相談する時間から、すでにモノづくりの冒険は始まっている。小さな手がつくりだす一つひとつの作品は、やがて豊かな日本を築く大きな力へと変わる。子どもたちの笑顔が広がるその先に、希望に満ちた明るい未来が確かに続いている。

企業・団体、多彩なイベント用意

そして26年、この活動はさらなる進化を遂げる。例年の東京開催に加え、大阪

このイベントの本当の主角は、完成した作品を掲げる子どもたちのキラキラした瞳だ。そして、その姿を

このイベントの本当の主角は、完成した作品を掲げる子どもたちのキラキラした瞳だ。そして、その姿を

このイベントの本当の主角は、完成した作品を掲げる子どもたちのキラキラした瞳だ。そして、その姿を